

第2回地域連携フォーラム・シンポジウム概要

1. 主催・共催

主催：文教大学大学院人間科学研究科

共催：三郷市教育委員会・越谷市教育委員会

2. 日時・場所

日時：平成24年1月28日（土） 午後2時から午後4時半

場所：文教大学12号館12102教室

3. テーマ

東日本大震災により県内に避難した子どもたちへの支援のための地域連携

4. 企画趣旨

3月11日に東日本を襲った大地震と津波は太平洋沿岸を中心とする東北地方に甚大な被害をもたらした。それに追い打ちをかけるようにして発生した原子力発電所の放射能漏れ事故は、地域住民から生活の基盤を奪ってしまった。埼玉県内の避難所では、多くの被災者が不自由な生活を強いられている。多くの被災者は、将来の見通しが不透明な中で苛立ちや絶望感を募らせている。そうした苦悩する大人たちの中で、心を閉ざす子どもたちも多くなっている。子どもたちも住み慣れた土地を離れることを余儀なくされ、新しい地域・学校・友人との関係づくりに大きな不安や困難を抱えている。加えて、避難者に対する風評被害も懸念されている。風評被害を防止するためには、地域レベルや学校レベルでのきめ細やかな対応が欠かせない。子どもたちの心のケアに関しては、長期的な視点に立った取り組みが必要である。また、就学前の子どもたちに対するケアや乳幼児を抱える母親への子育て支援、並びに今ある子どもたちのよりよい未来を構築するための教育的支援も必要である。それには、県や市町村と連携した取り組みが不可欠である。

5. シンポジウムの構成

(1)趣旨説明 今野 義孝（文教大学人間科学部）

(2)司会 佐藤 啓子（文教大学人間科学部）

(3)話題提供

①大野 正浩（三郷市教育委員会学校教育指導課）

三郷市に避難した児童生徒への支援について
～通常の学校生活を送れることを目指して～

②斎藤 紀義（越谷市教育委員会指導課教育センター）

市内小中学校における被災・避難児童生徒の状況について

- ③工藤 トモ（特定非営利活動法人MiKOねっと）
子どもたちの心に寄り添って共に遊んだ120日間
- ④根岸 公江（さいたまコープ地域ネットワーク）
避難した子どもたちへの支援 旧騎西高校でのとりくみを中心に
- ⑤雲雀 信子（NPO法人子育てサポーター・チャオ）
チャオの活動紹介 大震災に関連して行ったこと
ホームスタートとは

(4) 指定討論 谷口 清（文教大学人間科学部）

(5) まとめ 佐藤 啓子（文教大学人間科学部）